

瀬戸ヶ島埋立地における水産事業可能性調査について

瀬戸ヶ島埋立地において、養殖・蓄養等を中心とした水産事業の可能性が見込まれるため、引き続き近畿大学発ベンチャー企業の(株)自然産業研究所の協力を得て、実行可能性調査に取り組む。

1 調査分析状況：詳細は別紙中間報告書のとおり

(1) 国内水産物市場の縮小と輸出への展開

- ・国内水産物市場が縮小する中で、海外輸出への戦略展開

(2) 瀬戸ヶ島地区の優位性

【立地条件】

- ・国際貿易港や高速道路が整備され、消費地へのアクセスが極めて良好

【既存施設】

- ・養殖・蓄養に適した海水交換機能を持つ人工港湾が整備
- ・水産加工に適した、人工港湾に隣接する広大な土地が造成済み

【海洋自然条件】

- ・比較的温暖な海水温（12℃～27℃）により市場性が高い魚種の養殖が期待

(3) 瀬戸ヶ島の優位性を活かした事業展開案

- ・原魚調達：近隣漁場からの集荷・蓄養、地場の養殖魚、市場の魚

↓

- ・水産加工：フィレ、ロインなどユーザー向けの加工

↓

※フィレ：頭と尾を切り落とし、背骨に沿って二つに割り、三枚に卸した状態

※ロイン：フィレをさらに背肉と腹肉に分かれるように二つに割った状態

- ・冷凍加工：加工製品のストックコントロール

↓

- ・海外輸出・国内流通：浜田港の航路活用、高速道路の利用

2 瀬戸ヶ島地区での事業想定規模

- ・蓄養生簀 45 基（10m×10m×5m）を設置
→原魚調達：年間 2,000 t 以上、フィレ換算 1,300 t 以上、事業規模：約 20 億円
- ・水産加工場の敷地として、1,500～2,000 坪を確保
- ・今後、地場の市場や養殖生産による原魚の安定調達の可能性を検討

3 今後のスケジュール

平成 32 年度を目途に民間投資による工場の稼働を視野に入れ、平成 28 年度はさらに詳細調査に取り組む。